

## 名詞文の主題展開機能 —「XはYだ」における要素の持続性を手掛かりとして—

ニアムチャラーン・ニーラチャー（東北大学大学院生）

### 1. はじめに

名詞文は、名詞句を述語とした文である。名詞文の研究は、意味的な観点からの分類に関する研究が盛んである（三上 1953、坂原 1990、西山 2003、砂川 2005 など）が、談話レベルでの研究はそれほど多くない。名詞文は新しい要素を談話主題として展開するための表現の一つであり（砂川 1995b）、特にテキストの主要主題といえるほどに重要性が高い談話要素は、動詞文より名詞文として導入される傾向がある（ニアムチャラーン 2021）。このように、名詞文はテキストを展開するために重要な機能をもつといえるが、この機能についてまだ明らかになっていない点が多く存在する。

そのため、本研究は名詞文の談話機能の一つである主題展開機能を明確にすることを目的とする。名詞文には助詞「は」を伴う場合と助詞「が」を伴う場合があるが、本研究は、助詞「は」を伴う名詞文「XはYだ」のみを対象とする。前置要素であるX項と後項要素であるY項の後続文脈における持続のあり方を手掛かりとして、名詞文がどのように各要素を展開していくかを調べる。

### 2. 先行研究

名詞文のX項には、「～は／が」と「～のは／のが」という2つの形がある。前者の場合はコピュラ文と呼び、後者は分裂文と呼ぶ<sup>1</sup>。名詞文の談話機能に関する研究の多く（砂川 1995a、加藤 2009、今村 2020 など）は分裂文に着目しているが、砂川（2005）は分裂文がコピュラ文の特殊な形態だと述べ、両者を含む名詞文全体の機能を調べている。

砂川（1996、2005）は、意味論的な立場から名詞文が「記述文」と「同定文」に大きく分類することができるとしている。記述文は「ある対象の属性を記述する文」であり、「犬は動物だ」「橋本龍太郎は日本人だ」のような文である。同定文は、「ある対象を他の対象によって同定する文」であり、「幹事は私です」「首相は橋本龍太郎だ」のような文である。記述文には「Aには指示名詞句が、Bには性質・身分・所属・用途など属性を記述する非指示名詞句が用いられる」<sup>2</sup>、「記述文の述部には総記の含意がない」、「同じ文の中でいくらかでも記述をつけ加えることができる」といった特徴がある。一方、同定文には「Aには非指示名詞句が、Bには指示名詞句が用いられる」、「述部に総記の

<sup>1</sup> 分裂文も含めて「コピュラ文」と呼んでいる研究者もいるが、本研究での「コピュラ文」は「～は／が～だ」の場合のみを示す。分裂文も含めて言及する場合は「名詞文」という言葉を用いる。

<sup>2</sup> 砂川（1996、2005）の「A」は本研究のX項、「B」は本研究のY項に相当する。

含意が生じる」、「同定は一度値を割り振れば完成する」といった特徴がある。砂川の研究では、主に同定文における談話機能に着目して分析しており、記述文の場合は未だ十分に扱われていない。そのため、本研究は、上記の砂川（1996、2005）の意味論的な分類をもとに、記述文まで含めた包括的な数量的研究により、これらの種類の名詞文の機能をさらに分析した。

### 3. 調査方法

中学生の教科書に掲載された文章を集めた『光村ライブラリー 中学校編』から 10 作品（文学 5 作品、説明文 5 作品）を選択して調査資料とした。これらのテキストの本文における名詞文「X は Y だ」を抽出し、それぞれの名詞文における要素の持続の有無やその持続の長さについて調べた。持続の長さを調べる際、Givón（1983）が提唱した「主題持続」（topic persistence、TP）という方法を用いた。これは、対象である要素が名詞文として現れた後、同一指示表現がどれくらい現れているかを節の単位で数える方法である。数える範囲を 20 節以内とし、得た数値を TP 値と呼ぶ。TP 値が高ければその要素の持続性が高いと解釈できる。

この方法は節の単位で数えるが、ここでは、主語 - 述語という文に近い構造をもつ部分を節とする。単文の場合は 1 節とし、従属節をもつ複文の場合は、南（1993）の分類に基づく<sup>3</sup>。A類の従属節は状態副詞に近いため節として扱わないが、文に近い構造をもつB類とC類の場合は 1 つの節とみなす。また、引用節・間接疑問節は、引用内容・疑問内容と主節をそれぞれ 1 節と数える。連体修飾節については、主名詞を限定する連体修飾節の場合は節としない。一方、主名詞の何らかの情報を追加し、別の節として分割しても不自然にならない連体修飾節の場合は別の節とみなす。例（1）を上記の基準で節を区切ると、6 節に区切ることができる。

- (1) 1浮世絵の中心をなしているのは、2評判の美人や歌舞伎役者たちのブロマイドであるのだが、3それにとって、最も大事なことはなんだろう。4似ているという一点に絞られる。5（□は）どんなに構図や色使いが優れていても、6（□は）当人に似ていなければ、ファンは（□を）買ってくれない。【江戸の人々の浮世絵】<sup>4</sup>

同一指示表現については、同義語のほかに、省略語や代名詞も含めて数える。そうすると、例（1）の「評判の美人や歌舞伎役者たちのブロマイド」の TP 値は 4 になる。また、以下の例に現れた波線の部分は、四角に囲まれた要素と若干形式が異なっているが、

<sup>3</sup> A類は「～ナガラ（非逆接）」、B類は「～ノデ」、C類は「～ガ」のようなもので終わるものである。詳しくは南（1993）を参照のこと。

<sup>4</sup> 小文字の数字は節の番号である。下線部分は名詞文を、四角に囲まれた部分は対象である要素を表す。（□）は四角に囲まれた要素の省略語を、波線は省略語以外の同一指示表現を示す。「／」は形式段落を表す。

意味がほぼ同じである。砂川（1995a）によると、パラフレーズ（例 2）、詳述（例 3）、解釈（例 4）という表現は、同一指示表現として認められるものである。本調査もこのような表現を同一指示表現として捉え、数える対象とする。

- (2) <sup>1</sup>しかし、いちばん心持ちのいいのは、夜に入って、ここのうちの子供の寝床へもぐり込んでいっしょに寝ることである。<sup>2</sup>この子供というのは五つと三つで、<sup>3</sup>夜になると二人が一つ床へ入って<sup>4</sup>一間へ寝る。<sup>5</sup>吾輩は、いつでも彼らの中間に己を入れるべき余地を見いだして<sup>6</sup>どうにかこうにか割り込むのであるが、<sup>7</sup>運悪く子供の一人が目覚ますが<sup>8</sup>最後大変なことになる。【吾輩は猫である】
- (3) <sup>1</sup>道具の簡単な制作としてよく知られているのは、葉のスポンジ作りである。<sup>2</sup>木のうろに水がたまっていて、<sup>3</sup>口をつけて飲むことができない場合、<sup>4</sup>チンパンジーは木の葉をかんで<sup>5</sup>スポンジ状に丸め、<sup>6</sup>それをうろにつけて<sup>7</sup>水を吸収させて吸う。【動物の文化的行動】
- (4) <sup>1</sup>吾輩は猫ながら<sup>2</sup>時々考えることがある。<sup>3</sup>教師というものは実に楽なものだ。<sup>4</sup>人間と生まれたら<sup>5</sup>教師となるに限る。<sup>6</sup>こんなに寝ていて勤まるものなら猫にでもできぬことはないと。【吾輩は猫である】

ある要素が他の要素の同一指示表現かどうかは、その要素と同じような意味を持つかどうかから判断する。しかし、分裂文の X 項は「動詞節＋名詞化辞「の」」からなる名詞句であるため、後続の有無の判断が難しくなる。本調査では、分裂文の X 項の中の名詞・名詞句を判断の対象とする。たとえば、例（3）では「道具の簡単な制作」という要素が再び現れた場合は、後続があるとみなす。

#### 4. 結果と考察

対象テキスト 1790 節中、名詞文は 250 節（14%）存在した<sup>5</sup>。本研究は名詞文「XはYだ」のみを分析対象としたが、連体修飾節として用いられた名詞文や、「それは何だろう」といった疑問詞が現れた名詞文を対象外とした。この場合、当てはまる名詞文が 135 例存在した。これらの名詞文を意味的な種類によって分けると、記述文が 75 例（56%）、同定文が 51 例（38%）、その他が 9 例（6%）見られた<sup>6</sup>。本研究では、名詞文の典型的な種類である記述文と同定文の場合（合計 126 例）を取り上げて分析した。

<sup>5</sup> 前置要素が省略される場合や、「それに、花の色。」などといった一語文の場合も含む。

<sup>6</sup> 記述文と同定文に属しない例文が見られ、それは同一性文（2 例）と定義文（7 例）である。西山（2003）によると、同一性文は「ジキル博士は、ハイド氏である」のように、2 つの項が同一であることを示す。定義文は「と（は）」と伴う名詞文であり、X 項の概念を Y 項によって説明する文である。これらは周縁的な種類だと指摘している。

表 1 名詞文における要素の持続のあり方

	例数	後続あり		TP 値	
		X	Y	X	Y
記述文	75	66 (88%)	33 (44%)	4.48 (SD = 4.26)	1.01 (SD = 2.37)
同定文	51	11 (22%)	36 (71%)	0.31 (SD = 0.67)	3.02 (SD = 3.10)
名詞文全体	126	77 (61%)	69 (55%)	2.79 (SD = 3.90)	1.83 (SD = 2.62)

※ SD は標準偏差である。

表 1 は、名詞文における要素の後続文脈での持続のあり方を示す。「後続あり」は、名詞文として出現した後の 20 節以内の後続文脈に再び現れた要素の数である。「TP 値」は前節で説明した Givón (1983) の持続性の測定方法から得た TP 値の平均値である。まず、名詞文全体を見ると、後続がある X 項と Y 項の割合はあまり差がないように見える。しかし、記述文と同定文に分けると、記述文では X 項の方が多く後続し、持続性も遥かに高い。同定文の場合は、Y 項の後続が比較的多くて持続性も高いという、記述文と相反する傾向が観察された。これより、名詞文の種類によって要素の展開の仕方が異なるということが把握できる。

#### 4.1 記述文における主題展開機能

まず、記述文の場合について説明する。例 (5) のように、記述文は物の属性について言及する文であるため、属性を表す Y 項よりその属性の所有者を表す X 項の方が後続文に続く。

- (5) 吾輩は猫である。(□には) 名前はまだない。／(□は) どこで生まれたか、(□は) とんと見当がつかぬ。(□が) なんでも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていたことだけは(□は) 記憶している。【吾輩は猫である】

しかし、表 1 に示すように、Y 項が後続する場合もある。たとえば、同義語・類義語として語り続けられる例 (6) のような場合や、Y 項として現れた属性をさらに詳述する例 (7) のような場合がある。ただし、これらの例にも見られるように、Y 項の後続がある例文のほとんどは X 項の後続もある (33 例中 31 例)。

- (6) 吾輩の主人はめったに吾輩と顔を合わせることがない。(中略) うちの者はたいへんな勉強家だと思っている。当人も勉強家であるかのごとく見せている。しかし、実際はうちの者が言うような勤勉家ではない。【吾輩は猫である】
- (7) ぼくの行っていた中学校は、九段の靖国神社の隣にある。(中略) ぼくは、全く取り柄のない生徒であった。成績は悪いが絵や作文にはずば抜けたところがあるとか、模型飛行機や電気機関車の作り方に長じているとか、ラップかハーモニカがうまく吹けるとか、そんな特技らしいものは何一つなく、なかでも運動ときたら学業以上の苦手だった。【サーカスの馬】

各要素の持続性について、表 1 では X 項の持続性が高く見えるが、ばらつきが大きい (SD=4.26)。Y 項の TP 値の平均は 1.01 であるが、TP 値が 5 以上の要素も存在する。その多く (7 例中 5 例) は例 (7) のように詳述として語り続けられている。

記述文の要素の性質を見ると、X 項が後続文脈に持続すると予測できるが、以上のことから、Y 項が持続する場合も少なくないとわかる。しかし、その場合、X 項が共に持続するため、記述文は主に X 項を後続文脈に持続させる機能をもつといえる。さらに、X 項は、先行文脈にすでに現れた要素、または、先行文脈に現れた要素と関連があるものがほとんどである (93%)。そのため、記述文が展開するのは予測できる要素である。予測できない要素である X 項は、上記の例 (5) のように、先行文脈のないテキストの冒頭文で用いられる場合が見られる (3%)。このように、談話における記述文の主な機能は、先行文脈における要素を引き続き、それを後続文脈に展開していくことだといえる。

#### 4.2 同定文における主題展開機能

表 1 に示したように、同定文では X 項より Y 項の方が後続文脈に続く。例 (8) (9) では、Y 項として現れた「映画の看板絵や漫画の似顔絵」と「細菌」がその直後に再び言及されている。また、Y 項の TP 値の平均は 3.02 であり、かなり高い持続性を持つ。TP 値が 2 以上の場合は 31 例 (60%) を占め、TP 値が 5 以上の場合はそのうちの 12 例 (24%) である。

- (8) 浮世絵の中心をなしているのは、評判の美人や歌舞伎役者たちのブロマイドであるのだが、それにとって、最も大事なことはなんだろう。(中略) ここで思い出してほしいのは、映画の看板絵や漫画の似顔絵だ。あれは芸術だろうか。(□の) なかには芸術に迫る作品もあろうが、多くの人は(□を) 芸術とはみなしていない。まさに浮世絵はそれだったのである。【江戸の人々の浮世絵】
- (9) (「ゾウリムシ」について語っている) …この表面には、何千本もの絹の糸のような繊毛とよばれる毛が生えている。(中略) ゾウリムシの食べものは細菌だが、これを体内に取り入れるのにも、繊毛は役立つ。【三十五億年の命】

同定文には X 項の後続がある例文もあり、ほとんどは Y 項の後続もある (11 例中 8 例)。X 項のみが後続する場合は、例 (10) のように、分裂文として現れる。しかし、いずれの場合も X 項の TP 値が低く、最も高い TP 値は 3 にすぎなかった。

- (10) 例えば、ここに羽子板絵を示そう。江戸時代の押し絵羽子板はとても高価で、正月にそれを使って遊べるのは金持ちの子供に限られていた。そこに浮世絵師たちが着目して、こういう作品を描いて売り出した。【江戸の人々の浮世絵】

同定文の X 項は、記述文の場合と同じく、先行文脈の要素を引き継いだ、その後の文脈に展開するのは Y 項だとわかる。Y 項は、先行文脈から予測できない新規要素が多

く見られた(76%)。既出である Y 項の多くは、先行文脈に現れた同一指示表現から 15 節以上の距離があるため、読み手の記憶から離れたものを再導入する際に同定文が用いられると考えられる。このように、同定文は要素を導入／再導入し、それを新たな主題として展開する機能があるといえる。同定文「X は Y だ」のこの機能については砂川(2005)においても指摘されているが、本研究は量的研究によって実証した。

## 5. まとめ

本研究は、名詞文における主題展開機能を明らかにするために量的研究を行った。名詞文における要素の持続の傾向が名詞文の種類によって異なるため、各種類の名詞文は異なる主題展開機能をもつと判明した。記述文は、先行文脈に現れた要素を引き継ぎ、その要素をさらに後続文脈に持続させる機能を持つ。一方、同定文は、先行文脈から予測できない要素を新たな主題として後続文脈に展開する機能がある。このため、記述文の場合は前置要素が、同定文の場合は後置要素が語り続けられると予測することができる。なぜ記述文と同定文の機能がこのような異なる傾向があるのか、その原因は各種類における要素の指示性の違いにもあると考えられるが、この点についてさらなる検討が必要である。

## 参考文献

- 今村 怜 (2020) 「日本語における分裂文の談話機能について」『日本言語学会第 160 回大会予稿集』 pp.153-159.
- 加藤雅啓 (2009) 「ガ分裂文の談話機能」『上越教育大学研究紀要』第 28 巻 pp.119-130.
- 坂原 茂 (1990) 「役割、ガ・ハ、ウナギ文」『認知科学の発展』3 巻 pp.29-66.
- 砂川有里子 (1995a) 「日本語における分裂文の機能と語順の原理」仁田義雄編『複文の研究(下)』くろしお出版 pp.353-388.
- 砂川有里子 (1995b) 「語順と特立提示機能に関する試論—新規項目の導入形式を手がかりとして—」『第 4 回小出記念日本語教育研究会論文集』 pp.99-112.
- 砂川有里子 (1996) 「日本語コピュラ文の類型と機能—記述文と同定文—」北原保雄編『つくば言語文化フォーラム研究報告書—述語機能の研究—』 pp.44-56.
- 砂川有里子 (2005) 『文法と談話の接点—日本語の談話における主題展開機能の研究—』くろしお出版.
- ニアムチャラーン・ニーラチャー (2021) 「主題性の観点からみた新規要素の導入形式—テキストにおける重要な要素を対象に—」『国語学研究』60 号 pp.58-70.
- 西山佑司 (2003) 『日本語名詞句の意味論と語用論—指示的名詞句と非指示的名詞句—』ひつじ書房.
- 三上 章 (1953) 『現代語法序説』くろしお出版.
- 南不二男 (1993) 『現代日本語文法の輪郭』大修館書店.
- Givón, T. (1983) "Topic continuity in discourse: An introduction." In T. Givón et al. eds, *Topic continuity in discourse: a quantitative cross-language study*. Amsterdam: John Benjamins, pp. 3-41.